



鹿児島県 児童クラブ連絡協議会

連絡先
〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久2105-1
TEL/FAX 0995-45-7800
http://m-jidouclub.com/krijidouren-index.htm



携帯サイトです。ブックマークに登録を！

ニュース

No. 41

2014年12月20日

2014年度ブロック指導員研修会 北薩地区会場に50名！！ グループ討議で交流を深める

11月23日薩摩川内市「セントピア」で開催の研修会では、障がいのある子どもの放課後支援（お泊まり支援等）の「ゆめの樹」園長の米衛政光さんが、「『気になる子ども』への寄り添い方」と題して研修会を開催しました。

気になる子どもたちをどう理解しているのか、基本的に言われていることはどういふことか、「指導」とはどういうことか、本当の「指導とは」どういふことか、実践と実例をもとにお話をいただきました。

薩摩川内市や出水市、阿久根市、いちき串木野市などから参加した指導員のみさんのアンケート感想「日頃の子どもの対応を反省させられるとか、明日からの指導に生かしたい等」は、次ページ以降に掲載しています。

小グループに分かれての交流では、日頃の悩みなどの意見交換ができて有意義な研修会となったと感想をいただきました。



2014年度鹿屋市学童育連絡会・公開講座 11月30日鹿屋市会場に80人！

鹿屋市学童連主催の学期における発達障がいの特徴やその対処方法を学ぶ2014年度「発達障がい学習会」（4回講座）の公開講座は、『こころの器（うつわ）…児童期の問題と治療的カウンセリング』と題して、志学館大学の山喜高秀先生による講演会が開催されました。大隅地区の80名の指導員のみさんの参加がありました。

厚生労働省のホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-koyou.html?tid=202336>
こちらにアクセスすると「放課後児童クラブの質の向上のための研修企画検討会」に関する最新の資料をダウンロードすることができます。

11月26日全国連協 - 対政府要請行動をとくいくむ

現在、国・自治体では子ども・子育て支援新制度の2015年4月からの実施にむけ、準備を進めています。市町村では、省令をふまえて学童保育の基準を定める条例制定、事業計画の策定が進められています。5年間で、すべての指導員が受講すべきとされる認定資格研修も始まります。

11月26日全国連協による要請行動の報告は、同封の「全国運営委員会ニュースNo. 2（2014年12月10日）」に詳細が記載されています。

特に、「来年4月1日から9要件のいずれかに該当する指導員が一人以上はいなければならない」ことに関して

省令の附則の経過措置には「修了することを予定している者を含む」とあり、来年の4月1日時点で、9要件を満たしている人はすべて「放課後児童支援員」（有資格者）とみなされます。5年間のなかで認定資格研修を受ければ、放課後児童支援員と認定され、本人が認定を希望しない場合は、5年後には「補助員」となります。

また、来年4月1日から新設する学童保育では、指導員募集の際は9要件を満たす人を採用しないといけないということになります。

9要件を満たしている指導員は、認定資格研修を受ける必要があります。

2014年度 新制度学習会 & 研修会のご案内

2月21日(土) 子育て新制度学習会 / 議員・行政対象 3月15日(日) 新年度を控えての指導員・学童保育研修会



2015年4月スタート予定の子ども・子育て支援新制度について、学童保育に関わって、特に放課後児童支援員（指導員）の資格認定研修等の学習会を開催します。

○日時 2015年2月21日(土) 15:00~17:00
○会場 鹿児島市「県青少年会館3階・洋会議室」
(鹿児島市鴨池新町1-8 TEL 099-257-8226)

◆講師 真田 祐さん(全国連協事務局次長)
テーマ：かごしまの学童保育の現状と課題
～新しい子育て支援策の動きと市町村の学童保育施策の拡充に向けて

※呼びかけ対象
県議会議員・市町村議員のみさん、
行政(県及び市町村担当部局の方)

第8回鹿児島県児童クラブ連絡協議会

新年度を控えての指導員&学童保育研修会の開催

1. 開催要領

- (1) とき 2015年(平成27)年3月15日(日)
10:30受付 11:00~16:30
ところ 鹿児島市「鹿児島県青少年会館大ホール」(県庁前向かい)
(2) 受講料 800円(資料代)*加盟クラブは、500円
※講座1, 2受講の方で「指導員のテキスト」を必要とする方は、テキスト代500円が必要です。

2. 研修会日程

- (1) 基調講演 11:00~12:00
「こども理解のために～教育相談活動を通して見えてくる課題」
講師：濱田健一さん(鹿児島県民教育文化研究所・所長)
(2) 分科会 13:00~16:30
i) 基礎講座 指導員の仕事と役割(保護者ととも育てる)
ii) 実践講座 学童保育の生活とあそび
iii) 理論講座 子どもたちとの関わり方 子どもの貧困と「生きる力」
講師：安村美代さん/名山小・養護教諭
iv) 理論講座 子どもたちの成長・発達とは 講師：熊谷良子さん

【**鹿県児童クラブ連絡会 2014年度ブロック研修会・北薩 米衛政光講演 アンケート・要旨**】

・市町村名 薩摩川内市(24) 出水市(7) 阿久根市(2) さつま町(2) いちき串木野市(3) 日置市(1)
霧島市(2) 奄美市(3) その他(2)
初めて参加した(10) 参加したことがある(36)

■**研修講座(米衛政光さんの講演)は、いかがでしたか?**

- ・障がいのある子などのことを勉強する研修会に参加したのは初めてでした。どういいう寄り添い方がよいのか、分からない部分が多かったですが、米衛先生の寄り添い方、言葉など“なるほど”ということがたくさんあり、少しずつだと思えますが、気になる子に対する言動を変えていこうと思います。米衛先生の講演は、とても聞きやすく、勉強になることがたくさんでした。
- ・発達障害の種類的基本的な行動や特徴を具体的に示していただいたので、わかりやすかったです。また、その関わり方も実践を交えて具体的に教えていただいたので、実行してみようと思います。
- ・講座を聞きながら、日々の学童での自分の姿、言葉かけを反省しました。これから、また子どもに寄り添って、言葉かけの仕方が明日からの生活に生かせようと思います。
- ・最近、私自身気持ちに余裕がなかったので、子どもとの関わり方を見直すいい機会になりました。いろいろな資料をもとに実際の話なども聞くことができ、とてもよかったです。
- ・温かいお人柄が伝わってくるお話でした。
- ・言葉かけの仕方、子どもたちの行動が変わる。…頭では分かっている、現実にはなかなか実践できないです。手にあまる子が増えている気がします。障害! ?なの? 具体的な対応の仕方が、いまいち分からなかった…
- ・講演の中の全てが、今の自分や学童の子にあてはまり、とても勉強になったと思います。子どもの気持ちに寄り添うということが、大変なことだけ大切なこと、支援する側の悪循環や二次障害を防ぐことが大切だと思います。

- ・LD、ADHDの支援のポイント。寄り添う…子どもに対して接し方、話を聞いて奥深いなあと思いました。上から目線での指示の仕方じゃなく、一人ひとりの良いところをみつけ接していきたいと思います。
- ・発達障害を持つ子どもへの対応の仕方などを中心にお話をしてくださいましたが、発達障害を持たない子どもにも対応ですとお話だと感じました。実際の学童保育にすぐに役立つような内容でした。
- ・演題は、「気になる子ども」への寄り添い方でしたが、日頃の保育の中で考えていくべきことであり、とてもよかったです。グレーゾーンの子もたちが多く、どう対応したらいいのかと思いつながらの日々の生活で、当然ではあるけれど、講演を聴くことでそうしたいと思える気が増してきました。早速、全員ミーティングで伝えて実践していきたいと思っています。
- ・過去の失敗談、また現在の実践例、現場での成功例など、状況が思い浮かぶお話ばかりでした。すーっと入ってきました。お話を聞きながら、私は未熟だなあ…と感じることばかりでしたが、今日を機に言葉かけ方、文末の言い方など変わることができそうな気がします。
- ・子どもへの対応の仕方など、再確認することがありました。健常児を学童保育で、障害のある方を放課後デイサービス、児童発達支援でお預かりし、それぞれの時間と共有する時間をお互いが過ごすことで、丁度良い相互作用が得られることがあります。どんな子どもでも、ひとりの人間として向かい合うことで、気持ちが解決するのではないかと思います。

- ・子どもをその気にさせる声かけ、とても勉強になりました。自分でも気をつけて声をかけるようにしてはいても、時間的余裕がないときは、命令口調になりがちなので今後気をつけていこうと思います。ほめ方も「できたね」ではなく、もっと工夫していこうと思います。
- ・すごく分かりやすく、関わり方など聞けて良かったです。自分の子どもとの関わり方をもう一度考え直す機会になりました。今日学んだことを少しずつ現場でやってみて、子どもとの信頼関係をもっとうまく築いていけたらいいなと思いました。否定せずに子どもの心をもっと深く読みとれるように、しっかりと子どもと関わっていこうと思いました。
- ・わかりやすい研修でした。
- ・いつも、バタバタの生活の中での保育ですが、やさしく、やさしく、言葉が言えるのか心配です。頑張っって向き合いたいと思います。
- ・実践に基づき、また実際に実演していただいたり、気になる子どもたちへどう言葉かけすればよいか、とても分かりやすかったです。
- ・大変参考になりました。発達障害に関する研修は度々受けていますが、具体的な関わり方については、実際に児童と接している現在、試行錯誤してる毎日です。これまでいただいた資料を見返したりして、他のスタッフとともにとり組んでいます。今日の講演から実践的な提案や具体的な方法が学べました。とりわけグレーゾーンにいるのかなと感じる児童が増えている今、保護者も関わり方に不安を感じています。学んだことをみんなで共有し、あてはめていきたいと励まされました。



寄り添うとは ①
悲しみを深く読み取る

<高校を中退させられた高機能自閉症のこうきさんの場合>

- 高2になって、初めて女の子を好きになり、付きまとって暴力をふるってしまふ。
- 高校からは自主退学を求められる。私の「どうしてそんなことをしたの?」の問いかけに、相談の場から逃避。

異性を好きになることが許されない悲しみの共感こそ



寄り添うとは ②
共感的自己肯定感が持てるように

<自分を傷つける発達障害者の淳さんの場合>

- 思春期を迎えて、他から自分がどう評価されているのかいっそう敏感になって、自傷や母親への暴力の繰り返し

↓

- 他からの評価を感じさせない対応の工夫を
- 競争に勝っても「競争的自己肯定感」ではなく、何もできなくてもそこにいてよいと感じられる「共感的自己肯定感」をもてるように

寄り添うとは ③
「弱さ」に手を当て、「強み」を伸ばす

- 「弱さ」に手を当ててくれる人が一人でもいてくれると、発達障がいの子どもは、自分の持っている力を存分に発揮して活躍できる。
ex. 著名人の場合
- 昨年12月、国会が世界で141番目に批准した「障害者権利条約」の目指す世界は、「インクルージョン(包容)」の考え方



〈演題〉「気になる子ども」への寄り添い方

学童支援「ゆめの樹」園長
米衛 政光さん

- とっても穏やかで、ゆっくり丁寧に講演をしてくださり、とっても良かったです。具体例をあげながら「気になる子ども」への寄り添い方、診断されていない子も預かっていらっしゃるとのこと。学校の教育現場でも、学級に数名いる中でも言葉かけの大切さ、具体的に丁寧に教えること、視覚的な情報など、指導のヒントを得て、明日からの指導に役立てたい。
- 実践に基づく話で、心にしみこむ感じでした。専門的な資料もあり、これからじっくり目を通そうと思います。
- 障害のある子どもへの対応、声かけで何が大切なのか、障害のある子どもの心のやみ、辛い気持ちを知ることができ、これから指導員がどのように対応すべきかを学ぶことができました。

■研修講座で印象に残ったことは、どんなことですか？

- 子どもへの寄り添い方がとても勉強になりました。ダダこねやパニックの時の子どもへの寄り添い方で、すぐに近づかない、少し離れたところで見ておく、とても勉強になりました。

- 発達障害児の特徴を具体的に表してもらったことで、自分の所にもこういう子どもがいるなあと思いました。その子どもとの接し方についても、もう少し考えていこうと思いました。交流会ではいろんな話が聞けてよかったです。
- “あなたの文末はどれ？”です。とてもとても反省しました。「～しようか」を心がけていきます。
- 指導員の言葉かけで、子どもがスムーズに次の行動にうつったりすることは、普通の生活で感じることでした。言葉かけを重視した関わり方が今までできていなかったため、否定的な言葉かけよりも、誘いかけの言葉かけができるよう指導方法を見直していこうと思いました。
- 子どもに寄り添うとは、まず、初めに一番大切なのが、悲しみを深く読みとることだと思いました。
- 叱るときは、声が低く、短く簡単に！まずは認めてやる！
- 子どもの個性を認め、その子の一番いいところを見つけて伸ばす。指導者のスキルアップが大事だなあと思いました。
- 文末の件、とても良かったです。

- 共感的自己肯定感（インクルージョン）自己復元力、今までの研修に出てこなかったため、子どもたちにとっても大切だと思った。
- 間を持って接する…その場面になったと、実際やっていないな、と反省です。言葉かけひとつで子どもの行動が変わる…「～しようか」の言葉かけがすぐに出てくれるように、気をつけていきたいです。
- 児童に対しての声かけで、予告、誘いかけがとても勉強になりました。
- 誘いかけの言葉の重要性。
- 子どもたちへの接し方や特に目での情報の部分が印象的でした。言葉だけではなく、視覚での情報も児童には大切であることを改めて気づき、考えるきっかけになりました。
- 特別支援クラスの子どもの話を質問したのですが、みんなに特別感を与えるのもいいんだと、改めて実感しました。
- 関わり方について…間、予告、誘いかけ、選択…『決定の主人公』にできるように接したいと思います。
- 生命と社会的マナー、人権に関わる事例に対しては、毅然と注意すること。

子どもの「抵抗」をかいくぐるかわり方

「間」のあるはたらきかけや選択的働きかけをして、「決定の主人公」にしていく。

- 「立ち直るまで待っているからね」（間）
- 「～もうすぐ～するからね」（予告）
- 「～しようか」（誘いかけ）
- 「AとBのどちらにするの？」（選択）

「折り合う力」を育てるかわり方

自己復元力・自制心をこそ育てる。

- 「～したいんだね。だけれども～しようか。」
(受け止め→提案)
- 「～してから～しようか」
(自制への誘い)

「その気にさせる」かわり方

「間」のあるはたらきかけや選択的働きかけをして、「決定の主人公」にしていく。

- 「～したらいけません」→「～しようか」
(否定型→肯定型)
- 迫真性・応答性・要求性のある語りかけを
- 過程としての・肯定としての値打ちづけを

あなたの文末はどれ？

A: ～して（～しててね ～するよ～せんか）

B: ～しないとだめ（～したらだめよ）

C: ～しないと～できないよ

D: ～しよう

E: ～しようか

指導とは

- 「カズクの指導」や「賢しの指導」は、未熟なやり方。
- 子どもがその気になってもいないのに、すぐ反応させるようなやり方でいいの？

↓

- 指導とは、子どもの内面に介入し、やる気を引き出すように指さし導くこと。
- 指導とは、子どもの「そうなれない自分」「そうありたい自分」の間に介入していくこと。

まなざしと表情とからだによる語りかけ ①

迫真性のある語りかけ

漠然とあれこれ多く語るのではなく、真に迫り、身にかかるように語りかける

ex1) 飛び出しへの一本腕による制止

ex2) 抱きかかえて、TVスイッチを切るように促し

ex3) 後方から包み込むような後押し

・「言葉に添えられた気持ちを理解することができない」日々保育する中で「なぜ、この子はこんなことを言うてしまうのだろうか？」と思う場面がありますが、今日なぞが解けました。知的発達の遅れを伴わない高機能障害についてもっと学ばなければならぬと思いました。

・話しかけるときの、文末の表現、強制連行のようなやり方は、だめ等。頭の中では理解していてもやってしまうことが多く、反省しました。今後はもっと気を落着けて対応していこうと思います。

・「できない自分」と「したい自分」2つの自分でゆれているなどいうところが印象に残りました。そういう気持ちを持っているだろうと考えたことも今までであったけど、今日話を聞き、やっぱり子どもたちは自分の中で葛藤して本当に苦しんでいるんだと、改めて感じました。そして、その気持ちを少しでも楽にすることができれば、少しでも楽にしてあげたいと感じました。言葉のかけ方一つで、相手の気持ちを軽くしてあげたり、逆に追いつめたりもあるので、もっとしっかり考えて声かけできればいいなと思いました。

・自分の命、他人の命、社会のルールに反することにははっきり「だめ」と叱る。それ以外は「～しようか」と肯定的に声かけをしていく。

11月16日奄美地区で初めて、指導員研修会が開かれ40名が参加！！ 2月1日は、奄美地域連絡協議会が発足します。

講演：加来 宗暁（鹿児島県連絡会会長）
演題：「子育て支援新制度について」
研修講座：指導員の仕事／田間 美沙緒

2014年11月16日
奄美市伊津部小学校

【参加者感想文】

- ・ 講話の中で、学童は緊張感があったらいけない、家庭の代わりとなるよう安らぎの場、居心地の良い場所にしてほしいという言葉が心に残りました。自分のことを「先生と呼ばない」という理由を聞き、子どもと同じ目線に立ち、包み込むような指導員に私もなりたと思いました。自分の学童はどうか？ 安らぐ場かな？ と自分に問いかけました。思わず反省しました。
- ・ 子どもとの声を聞きながら「ただいま」の声は、一つではないということ、大人はよい聞き手になる、相手を理解してあげる、学童が一番のたのしいところでありたい、子どもの息のぬける場所でありたい、上からの目線で言うのではなく、子どもの目線で聞いてあげられるよう、…うなずくばかりでした。
- ・ 今回の研修が奄美で行われたことがとても有り難く、感謝の気持ちで一杯です。研修会が行われる機会があるときは、積極的に参加してもっと学童保育の制度や、指導員の仕事になど知ることがたくさんあると思うので、学んでいけたらと思います。

- ・ 仕事をしていても、まだ知識不足や経験不足の所もありますが、講話を聞いて納得する所も多くあり、子どもと指導員とのコミュニケーションの取り方なども、非常に分かりやすいお話でした。いろいろな学童でいろんな対応のやり方がありますけど、話を聞くことで良いところは見習い、改善していくところはしっかり直していきながら、それぞれの良さを仕事で生かして、指導員、保護者、子ども、学校との連携もやっていくことの大事さも学ぶことができました。
- ・ 11月16日の研修会、どういった内容の会なのだろうか？との思いで参加しましたが、時間もあっという間に過ぎ、聞いていてとても勉強になるいい研修会でした！学童の仕事始めて約2年間になりますが、この会の中で子どもとの関わり方、心構え等、今まで深く考えていなかったことにふれ、子どもの表情、言葉、態度等いろんな部分に心配りを持ちながら、やっていかなければいけない！と仕事に対する意識が変わりました。

- ・ 学童の指導員をはじめ10年以上になります。はじめた頃比べると、学校全体の人数は減少しているのに、学童を利用する子どもは増えている現状をみても、これからも学童の必要性は高まるばかりだと思います。それに伴い指導員の資格認定研修など、早く実現できるようになればと思います。奄美全体での学童がもっと充実できるようにみんなで頑張っていきたいと思っています。
- ・ “学童は、子どもたちがのびのびできる場所、ほっとできる場所でなければならない”大事だと思います。子どもたちと一緒に体を動かしたりすることで、信頼関係を築いていくことができるし、いつも接する中で声・表情だけで“いつもと様子が違うな”“何かあったのかな”と気づき、声をかけた時、話を聞いてあげたり、気にかけているというサインを送ってあげること、よりいっそう信頼関係を強めることができるのではと思います。今回の研修で、改めて子ども一人ひとりをもっとちゃんと見よう、そして保護者に子どものいい面を小さなことでいいから、多く見つけて伝えていけようと思いました。
- ・ 研修会に参加したのは初めてで、たくさん貴重なお話を聞くことができました。今まで「学童保育」についての知識や仕組みがあやふやなまま携わっている部分があったので、今回の研修で得たもの本当に大きいと思います。学童保育は、子どもの生活や性格の形成にも関わってくる場所なんだということを改めて確認することができました。
- ・ 学童は「親が仕事でいない子どものために」としての認識しかしていなかったのですが「親が子どもを安全に預けることができる場所」であるということに気づかされました。もっともっと研修に参加したくなりました。勉強したくなりました。
- ・ 月1回は、各学童の指導員と交流し、このような研修会をずっと続けていけたら、自分自身の向上に向けてこれからも頑張っていけると思っています。

日 新 聞 2014年(平成26年)11月20日 木曜日 社 会 (8)

2014年11月20日南海日日新聞

地域連絡協結成の提案も

子育て支援新制度に備え研修

奄美市名瀬

2014年度奄美地区学童保育指導員研修会が16日、奄美市名瀬の伊津部小学校であった。奄美大島や喜界島で学童保育に携わる40人が参加。15年度から子ども・子育て支援新制度が始まることを見据え、講師の県学童クラブ連絡協議会の加来宗暁会長は「現状では公的責任が不十分。ぜひ地域連絡協議会を結成して、声を上げてほしい」と呼び掛けた。

民間団体もあるようだが、公的なもの以外では認められない。離島でも研修を開催できるように、行政などに働き掛けて」と語った。

研修では同協議会事務局の田間美沙緒さんによる、指導員の仕事についての実践指導もあった。

奄美群島では学童保育に関する連絡協議会が組織されておらず、研修会の開催は今回初めて。

加来会長は学童保育の現状について▽最低基準がない▽指導員の処遇が悪い▽学童保育を必要とする親が増えているなど整理。新制度発足に伴



全国連絡のとりにくみから

10月10日2014年度総会開催されました。12月20日は九州・沖縄ブロック会議です。

2014年10月10日、若手県花巻市内で全国学童保育連絡協議会の2014年度定期総会が開催されました。鹿児島からは10名が参加。総会では、2013年度の活動報告、決算報告、会計監査報告が承認され、2014年度の活動方針、予算が討議の後、決定されました。

【今年度の重点課題】

- 学童保育の量的・質的な拡充を求める。
- 「子ども・子育て支援新制度」本格実施の前に条例制定、事業計画案策定において学童保育のあるべき姿の実現を働きかける。
- 学童保育の役割と指導員の仕事を明確にし、労働条件の抜本的改善を求める。
- 連絡協議会の組織強化にとりくみ、父母会（保護者会）活動の活性化の道を切り開く。

○『日本の学童ほいく』の普及拡大を進める。

○ 東日本大震災で被災した学童保育への支援をすすめる。

また、第50回全国学童保育研究集會を、2015年秋に大阪府で開催することが決定されました。

大阪連協から、「大阪の学童保育の発展と結びつけて全国集會の準備をしていきたい」と決意が表明されました。

●2014年12月全国運営員会「九州・沖縄ブロック会議」の開催
日時：2014年12月21日（日）午前10時から午後5時頃まで
会場：福岡市「博多借成ビル9階 904号室」（定員30名）

●2015年第40回全国指導員学校・九州会場の準備会の開催
日時：2015年2月22日（日）13：00～
会場：福岡市「博多借成ビル9階 904号室」